

熊本地震後、はじめての再稼働 伊方原発3号機は ただちに 停止を



安全性再検証、 住民の声を聞くよう求める

8月12日、伊方原発3号機が再稼働しました。熊本地震後、全国ではじめての再稼働です。県民の半数以上が再稼働に反対し、しかも、熊本地震によって原発の安全性や避難計画について、県民の不安も広がっているにもかかわらずです。

「安全面の懸念や必要性への疑問を訴える住民らに説明を尽くしたとは言い難い」（愛媛新聞）、「複合災害対策を先送りしたまま、原発に回帰する政府や電力会社の姿勢を認めることはできない」（毎日新聞）など厳しい指摘に、県や国、四国電力は真摯に向き合うべきです。

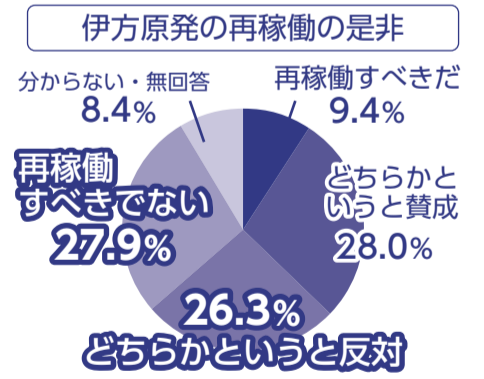
田中県議は再稼働された12日、中村時広愛媛県知事と佐伯勇人四国電力社長にたいし、「3号機をただちに停止」し、安全性の再検証や住民説明会など県民の痛切な声を聞くことを求める要請書を提出しました。

田中県議は四国電力原子力本部を訪れ、再稼働までに原子力容器の上蓋（うわぶた）を取り替えもせず、一次冷却水ポンプのトラブルなどが相次いだことも指摘。「福島原発事故から5年5カ月しかたっていない。震度7を連続して経験した熊本地震を受けて、専門家がさまざまな警鐘を鳴らし、見直し・再検証を求めている」と強調しました。



力あわせ、「原発ゼロ」へ 声を、あげ続けよう

3号機再稼働に抗議する伊方原発をとめる会の集会に参加した田中県議は「3号機が再稼働したからといって、県民の理解がすすむものではありません。不安が募るばかりです。力をあわせ、3号機は停止、廃炉へと、『原発ゼロ』へ声をあげ続けましょう」と呼びかけました。



佐田岬半島の避難計画実効性— 住民の立場で検証を

伊方原発での重大事故に備える「県広域避難計画」が修正されました。しかし、放射線防護対象施設のうち、4つが土砂災害警戒区域にあり、そのうち1つは危険性のより高い特別警戒区域にあります。

田中県議は4カ所のうちの1つ、九町診療所周辺を調査するなど、住民の立場で、避難計画の実効性を急いで検証することを求めています。

